

『人は、たとひ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません。そのいのちを買い戻すのには、人はいっさい何を差し出せばよいでしょう。』 (聖書)

日本の歴史上で、栄華を極めた人物の一人として、豊臣秀吉が挙げられます。彼は農民出身でありながら太閤にまで成り上がり、立身出世の代名詞と語られています。豊臣秀吉は黄金太閤とも呼ばれ、多くの金や財宝を所有し、側室も数多くいました。



### 全世界を手に入れるよりもはるかに価値のあるもの

聖書は、全世界を手に入れることよりもはるかに重要で比較にならないほどの価値のある「永遠のいのち」を得るための道を教えています。

「神は、美しき御子を御子といたしなさい。御子を愛せられた。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」 (聖書)

この世界を創造されたまことの神様が、御自身の愛の対象として私たち人間をお創りになりました。この神様の愛の中に生きようとして、人間の真の幸福満足を御子といたしなさいと決まさせていただきます。

この福音が、多くの方々が神様を無視し、感謝もせず、自分の心の赴くままに歩んでいます。それは罪であり、

彼は知恵と努力によって地位、権力、名誉、財産など、望む物すべてを手に入れました。さて、誰も真似できないほどの成功を経験した豊臣秀吉は、その人生の終わりに「自分の人生は実に幸いな人生であった」と語ったのでしょいか？

その答えはありませぬでした。彼は死の間際に、次のような言葉を残しました。

「死ぬるは、死ぬるときは、いかにわがみかななものは、いかに、死ぬるのまた死ぬる。」

彼は自分の生涯を振り返ったとき、人間の一生はすぐに消え去る露のようにはかななく、そして彼が大阪で栄華を極めたことも、ただの夢であったかのように思われました。



そして彼は彼の死後に残される幼いわが子、秀頼を心配しながら、築き上げてきたものの全てを残して世を去らなければなりません。豊臣秀吉の成功に満ちた人生でさえ、彼に真の幸いと満足を与えることはできず、結局最後はむなしさと絶望の中で死ななければなりません。豊臣秀吉の人生から、私たちは、人間の本当の幸いと満足とは「この世の物からは得られない」ということを学びることができます。

いのちが失われた状態なのです。

そして、神様を無視してそのまま死を迎えたならば、死後に自分が犯してきた罪の裁きを受け、永遠の地獄に投げ込まなければならないでしょう。

「このいのちを買い戻すのには、人はいっさい何を差し出せばよいでしょうか。」 (聖書)

私たちは、自分の宗教的な熱心さや善行によつていのちを買い戻すことはできません。しかし、神様がその代価を用意してくださいます。神様は御子イエス・キリストのいのちの犠牲を支払ってくださったのです。

全く罪の無い神の御子イエス・キリストが、私たちを永遠の滅びから救うために、十字架の上で私たちの代わり「罰」を致して下さりました。

キリストは私たちの犯してきたすべての罪を背負い、私たちのために血を流し、いのちを捨ててくださいました。

そして、キリストは死後三日目に死よりよみがえられ、多くの人に現れ、まことの救い主であることを示されました。

もしあなたが自分の罪を認め、悔い改めてイエス・キリストを救い主として心に信じ受け入れるならば、すべての罪が赦され、地獄から救われ、永遠のいのちが与えられ、天国に入る者としていただけます。

キリストを信じる者は、たとえ死を目前にしても揺るぎない平安と希望に喜べるのです。

ですから神様を拒む生き方を捨て、イエス・キリストを信じて救われ、「永遠のいのち」を得る方となってくださいますように、心からお勧めいたします。

